

「野上小学校の正門は？」

野上小学校の正門は、南門です。しかし、東門がかつての正門であったことを知る人は少なくなりました。

野上小学校の校歌「野上の子の歌」に「みどり芽をふく柳の庭に 育つぼくたち わたしたち」とうたわれた柳の木の下にあるのが東門です。背の高い石の門には、流浪の歴史がありました。記念誌『開校百年 野上小学校』に、野上中学校初代校長の吉田敏先生が寄せられた文があります。一部を要約して紹介します。

「野上小学校の校門は、古びた石の門である。この門には歴史がある。県会議事堂※がまだ公園前の、今の和歌山中央郵便局の敷地にあった頃のことである。」



県会議事堂

(※ 県会議事堂は明治29年、和歌山城公園前に落成。明治44年、議場では夏目漱石が「現代日本の開化」の題で講演を行っています。昭和8年、県会議事堂は県庁舎と離れていて不便だという声が高まったため、県は1か所にまとめて新築することを決定。昭和13年に現在の県庁舎が完成します。議場も県庁舎内に移り、県会議事堂は役割を終えることになります。)



平成29年 県会議事堂は、国の重要文化財に

「昭和13年、今の県庁の建物ができた時に農協（現JA）へ払い下げられ、昭和16年に和歌山駅前に移築されたのであるが、その後昭和37年、農協会館の新築とともに、また移されて根来寺の大講堂（一乗閣）となった。その時、不用となった石の門は、長年農協中央会長として功績高かった西田正次氏（下佐々）へ贈られたものを、そのまま彼は母校野上小学校へ寄贈したのである。このめっぽう背の高い4本の石柱は、県会議事堂の門として、農協中央会の門として、雨風にさらされながら、長い間和歌山県の政治と経済の流れを、その栄枯盛衰を眺めてきたわけである。」

(令和5年10月15日)